

井関農機100年の歩み

井関グループが紡ぐ「過去・現在・未来」

井関グループは、創業者の「農家を過酷な労働から解放したい」という想いを連綿と受け継ぎ、「お客さまに喜ばれる製品・サービスの提供」を通じて、社会課題の解決に資する価値を創出し、成長を続けてきました。今年で創立100周年、更にその先の未来に向けて、グローバルな社会課題の解決に挑戦していきます。

創立

1926年(大正15年)創業者・井関邦三郎は、愛媛県松山市に「井関農具商会」を創立し、全自動糶すり機の販売を開始しました。



1936年(昭和11年)「井関農機株式会社」を設立しました。主要製品は、糶すり機・麦すり機で、このときから当社は各製品に「キセキ式」の名称を使用することになりました。



課題・ニーズ

- 戦後の食料増産ニーズ

価値

- 農業の機械化による労働力低減・生産性向上

1965年(昭和40年)本格水田作業用としてトラクタ「TB20型」の生産販売を開始しました。機能、スタイルなどポルシェトラクタの技術を採用した製品で、富士山登頂に成功し、その性能が高く評価されました。



1990年(平成2年)機械化の進展により稲作における作業時間が省力化する一方で、野菜作の機械化ニーズが高まり、当社の強みである田植機の移植技術を活用した野菜苗を自動で植える移植機を開発しました。



1990-

1971年(昭和46年)「さなえPF20」の生産を開始しました。その後、当社イメージキャラクター「さなえちゃん」も誕生しイベントなどに登場しています。



1970-

1967年(昭和42年)欧州に進出し、フランスのイヴァン・ベアル社(現ISEKIフランス)と販売代理店契約を締結。積極的な販促活動により、輸出台数は右肩上がりに伸びてきました。



課題・ニーズ

- 高度経済成長期以降の農業就業人口の減少
- 重工業化の高まり
- 日系企業の海外展開の加速

価値

- 稲作機械化一貫体系の確立による生産性向上
- 農業機械の大型化・多様化による日本の経済発展への寄与

1966年(昭和41年)水田稲作に適した世界初の自脱型コンバイン「HD50型フロンティア」を開発しました。稲の刈取りから脱穀までの作業時間は従来の1/16に短縮でき、農業の生産性向上に大きく貢献。2014年「戦後日本のイノベーション100選」に選ばれました。



課題・ニーズ

- 農業従事者の減少・高齢化の加速
- 食料自給率の向上
- 世界人口増加に伴う食料増産ニーズ

価値

- 国内外の地域にあった農業機械の提供による農業生産性向上と景観整備保全
- 営農提案・サポートによる新しい農業価値の提供

1993年(平成5年)ISEKIの「I」をシンボリ化した商品用シンボリマークが決定。上部の楕円は「目標」を、下部は「人」を、そしてそれらをつなぐ、「グローバルな心の輪」を表現しています。



1999年(平成11年)特許を取得した当社独自の排出機構「ズームオーガ」を搭載したコンバインを開発しました。



2010-

2010年(平成22年)創立85周年を迎えるにあたり、「夢ある農業応援団! ISEKI」を全社員の合言葉に、農家の皆さまを応援する活動を強化しました。農業を取り巻く環境が大きく変化している中、「省エネ・低コスト」、「サービス力」の2つを基軸に、お客さまに提案・サポートすることで食料自給率の向上にも貢献していくことで、「低コスト農機」「37株疎植栽培」などの「低コスト農業応援技術」を展開しました。



2013年(平成25年)農林水産省の「農業女子プロジェクト」に参画。「夢ある農業女子応援Project」には、10年間で1,000名以上の女性農業者が参加。基幹的農業従事者の約4割を占める女性農業者の活躍を支援し、農業の発展と地域経済の活性化に貢献しています。現在は社内に有志の女性による推進チーム「さなえ倶楽部」を発足し活動しています。



未来へ

「食と農と大地」のソリューションカンパニーの実現

持続可能な食と農を未来につなぐ

「安全で安心な食」を未来につないでいくために、井関は「先端技術を活用したスマート農業」や「環境保全型農業の普及・促進」、「アジア農業の機械化」等、生産性の高い持続可能な農業の実現に貢献し続けていきます。



住み続けられる大地の実現

欧州・北米市場向けの草刈機やコンパクトトラクタ等は、景観整備を通じて住みよい村や街の実現に貢献し、「人々の生活の質の向上」を支えています。これからもお客さまに喜ばれる製品・サービスを提供し続けていきます。

環境や人に優しい社会の実現

食を支える農業や人々の暮らしを支える景観整備事業はエッセンシャルなビジネスとして重要性が増えています。井関は環境に配慮した事業活動を通じて、これらの生産性と持続可能性を高めつつ脱炭素社会と循環型社会の実現に貢献します。



2022年(令和4年)連結海外売上高は500億円を突破し、海外売上高比率は30%超となりました。伸長を牽引した欧州では、電動乗用草刈機の販売を開始するなど、更なる成長に向けた取り組みを進めています。



課題・ニーズ

- 食料安全保障への対応強化
- 農業の大規模化に伴う生産性向上、農作物の付加価値化
- 自然災害・気候変動への対応の必要性
- 環境対応の高まり、脱炭素社会実現への貢献

価値

- 省力化・無人化・データ活用による農業の生産性向上
- 環境保全型農業の推進や電動化等によるCO₂排出量の削減

1926年 ●「井関農具商会」を創立
1936年 ●「井関農機株式会社」を設立

1946年 ● 松山工場を設立
1949年 ● 熊本工場を設立
1958年 ● 系列販売会社の設立を開始以降、販売会社を日本全国に展開
1961年 ● 新潟工場を設立
東京証券取引所に株式を上場

1969年 ● 東京支社を本社事務所と改称
1971年 ● ブラッセルにN.V. ISEKI Europe S.A.S.(現ISEKI Europe GmbH)を設立
1972年 ● 松山工場を増設、本社を同所に移転
1977年 ● 茨城県に中央研修所(現ISEKIグローバルトレーニングセンター)を設立
北米にトラクタを輸出開始(OEM)

2001年 ● 製造部門の分社により、株式会社井関松山製造所、株式会社井関熊本製造所を設立
2003年 ● 中国江蘇省に井関農機(常州)有限公司を設立
2011年 ● 中国湖北省に東風井関農業機械(湖北)有限公司を設立
2012年 ● PT.ISEKI INDONESIAを設立
2013年 ● ISEKI SALES (THAILAND) CO.,Ltd.(現IST Farm Machinery CO.,Ltd.)を設立

2014年 ● 井関常州と東風井関を事業統合し、東風井関農業機械有限公司を設立
2014年 ● フランス販売代理店Yvan Beal S.A.S., YB Holding S.A.S.(現:ISEKI France S.A.S.)を子会社化
2015年 ● 夢ある農業総合研究所を設立
2020年 ● タイ販売会社 IST Farm Machinery CO.,Ltd.を子会社化

2022年 ● ドイツ販売代理店Iseki-Maschinen GmbHを子会社化
2024年 ● 栃井岡松山製造所と栃井岡熊本製造所を合併し、株式会社ISEKI M&Dを設立
2025年 ● 国内広域販売会社6社と三重キセキ販売機を合併し、株式会社ISEKI Japanを設立
2025年 ● イギリス販売代理店PREMIUM TURF-CARE LIMITEDを子会社化